

【MSGC】防災かるたの体験交流会を行いました

MSGC（水口東スーパーグローバルクラブ）の生徒が5年前くらいから制作に取り組んできた「防災かるた」を実際に外国籍の市民のみなさんに体験してもらいました。交流会の様子が新聞に掲載されました！

（日）
中日新聞
（第3種郵便物認可）



防災かるたをする水口東高生と外国籍の市民ら＝甲賀市水口町で

水口東高生の手作り

甲賀市の水口東高校の生徒が、災害への備えや対応方法を分かりやすい日本語と絵で表現した、手作りの「防災かるた」の体験交流会が十六日、同市水口町の市まちづくり活動センター「まろーむ」であった。生徒が外国籍の市民と一緒にかるたをして、いざという時に必要な知識や心構えを伝えた。（島将之）

「ひじょう食 かんづめ かんぱん チョコレート」。「ひ」の札が読み上げられると、取り札に目を凝らした参加者が手を伸ばした。札を取り終えた後、生徒らが外国籍の市民に内容を説明し「何かあった時のために、家に置いておく」と良いですと、助言した。

防災かるたは、二〇一五年

「防災かるた」で心構え学ぶ



甲賀 外国籍の市民と体験交流会

度には校内で発足した、国際問題や多文化共生を研究するMSGC（水口東スーパーグローバルクラブ）の生徒が発案。外国籍の市民が災害時の日本語情報を理解するのが難しいことを知り、制作に取りかかった。後輩が引き継ぎ、二二年度に五十首を完成させた。

交流会はクラブ員や有志の生徒、市地域おこし協力隊員が企画し、ブラジル、インド国籍などの市民が参加した。互いに自己紹介した後、五人ずつでかるたを楽しんだ。ほかにも避難所での生活を想定し、新聞紙を折り畳んだ簡易のスリッパも作った。クラブは今後、かるたを地域に普及させ、日本人と外国籍の市民が交流するきっかけ作りにつなげたいという。

クラブ長の二年生、田之上純奈さん（左）は「思ったより参加者が楽しんでくれて良かった。防災の知識も多くの人に知ってほしい」と話した。